

僕らは、未来を作っていると思つてた――

映画
太陽の子

“日本の原爆開発”を背景に、
3人の若者の決意と
揺れる想いを描いた
300日の青春グラフィティ

柳楽優弥
有村架純
三浦春馬
イツセー尾形
山本晋也
ビーター・ストーメア
三浦誠己
宇野祥平
尾上寛之
渡辺大知
葉山奨之
奥野瑛太
土居志央梨
國村隼
田中裕子

事実を基に描く――

8.6 FRI ROADSHOW

TAIYOUNOKO-MOVIE.JP

「ひよっこ」「青天を衝け」

「愛を読むひと」

監督・脚本：黒崎博 音楽：ニコ・ミューリー 主題歌：「彼方で」福山雅治 (アマーズ/ユニバーサルJ)

プロデューサー：コウ・モリ 土屋勝裕 浜野高宏 エグゼクティブプロデューサー：井上義久 山口晋 佐野昇平 森田篤 松井智 有馬一昭 東原邦明 共同プロデューサー：山岸秀樹 松平保久 浅見朋子 ラインプロデューサー：小泉朋
撮影：相馬和典 照明：鈴木岳 録音：張巻裕 美術：小川富美夫 衣装：宮本実莉 ヘアメイク：永江三千子 スクリプター：天池秀美 助監督：柿田裕左 制作担当：篠宮隆浩 キャスティング：おおずさわこ 編集：大庭弘之
サウンドデザイン：マツ・ヴォウレス カラリスト：アロン・ピーク VFXスーパーバイザー：オダイッセイ 制作：KOMODO PRODUCTIONS 宣伝：KICCORIT 配給：イオンエンターテイメント 製作：「太陽の子」フィルムパートナーズ
Presented by ELEVEN ARTS STUDIOS / NHK 助成：文化庁文化芸術振興費補助金（映画創造活動支援事業）| 独立行政法人日本芸術文化振興会 ©2021 ELEVEN ARTS STUDIOS / 「太陽の子」フィルムパートナーズ



「ひよっこ」「青天を衝け」

柳楽優弥 × 有村架純 × 三浦春馬 × 監督:黒崎博

日米で描く“日本の原爆開発”——。ハリウッドを魅了した青春物語。

太平洋戦争末期に存在した「F研究」と呼ばれる“日本の原爆開発”。その事実を基に、時代に翻弄されながら全力で駆け抜けた若者たちの、等身大の姿を描いた青春群像物語。監督・脚本は「青天を衝け」など多くの話題作を手がける名手・黒崎博。彼が10年間大切に温め続けたこの企画に共鳴し、柳楽優弥、有村架純、三浦春馬、田中裕子、國村隼、イッセー尾形、山本晋也、そしてピーター・ストーメアが参加。音楽にはアカデミー賞5部門ノミネートの『愛を読むひと』のニコ・ミュリー、サウンドデザインに『アリー・スター誕生』のマット・ヴォウレスと、ハリウッドスタッフが続々と参加。さらに主題歌を、製作陣の熱い想いを受け止めた福山雅治が担当し、心に沁みるバラード「彼方で」で物語を深く彩る。今夏最注目の日米ビッグプロジェクトが遂に公開。



STORY 1945年の夏。軍の密命を受けた京都帝国大学・物理学研究室の若き科学者・石村修（柳楽優弥）と研究員たちは、原子核爆弾の研究開発を進めていた。研究に没頭する日々の中、建物疎開で家を失った幼馴染の朝倉世津（有村架純）が修の家に居候することに。時を同じくして、修の弟・裕之（三浦春馬）が戦地から一時帰郷し、久しぶりの再会を喜ぶ3人。ひとときの幸せな時間の中で、戦地で裕之が負った深い心の傷を垣間見る修と世津だが、一方で物理学に魅了されていた修も、その裏にある破壊の恐ろしさに葛藤を抱えていた。そんな二人を力強く包み込む世津はただ一人、戦争が終わった後の世界を見据えていた。それぞれの想いを受け止め、自分たちの未来のためと開発を急ぐ修と研究チームだが、運命の8月6日が訪れてしまう。日本中が絶望に打ちひしがれる中、それでも前を向く修が見出した新たな光とは——？

今を、生きる。

戦争が終わろうとしていたあの頃——
死と隣り合わせの弟がいた
ただ一人、未来を見つめるあの娘がいた
守るべき彼らのために、これからの世界のために僕は、
がむしやりに走り続けた



1月10日(月)

18日(火)

パレシネマ

入替なし2本立て

予告編はコチラ▶

Taiyounoko-movie.jp

@TaiyounokoMovie

【同時上映】復讐者たち 一般 1300円 シニア 1100円 地下鉄「湊川公園」駅東5出口すぐ

